

## フレート・トン

### フレート・トンの概要

フレート・トンとは、容積トンと重量トンと比較し、いずれか大きい方を採用して出される貨物量に用いられる単位のことを指します。

容積トンとは、容積40立方フィート（1.133立方メートル）を1トン、重量トンとは1,000キログラムを1トンとして計算される数値を指します。

### フレート・トンの活用例

このフレート・トンの単位は主に、海上輸送時の海上運賃を算出する際の貨物量に用いられています。

海上運賃は、基本運賃と割増運賃によって構成されていますが、このうち基本運賃は、輸送される貨物の品目毎にフレート・トンによって計算されています（割増運賃とは、燃料費や、取引を行う通貨為替レートの変動によって調整される運賃等を指します）。

例えば、1立方メートルの鉄の場合、容積トンと重量トンと比較すると、約0.88容積トン、約7.86重量トンとなり、重量トンの方が大きくなるため、約7.86フレート・トンとして運賃を算定します。

一方、1立方メートルあたり50キログラムの家具の場合、容積トンと重量トンと比較すると、約0.88容積トン、0.05重量トンとなり、容積トンの方が大きくなるため、0.88フレート・トンとして運賃を算定します。

仮に、重量のみを基準として海上運賃を算出した場合、1立方メートルの鉄と157.2立方メートルの家具で、同じ運賃がかかることになってしまいます。

また、容積のみを基準として海上運賃を算出した場合、1トンの鉄と6.36キログラムの家具で、同じ運賃がかかることになってしまいます。

このように、海上運賃を決める上では貨物の重量の他、容積も重要な要素となり、それぞれを比較して運賃を設定することが合理的な方法となることからフレート・トンの考え方が世界共通で定着しました。

フレート・トンとは、統計法に基づいて実施される港湾調査においても、海上出入貨物量を表す単位として用いられています。一方で、貨物量にメトリック・トン（1,000キログラムを1メトリック・トンとする）を用いる統計とは、貨物量の単純比較ができないため、複数の統計データを比較して分析を行う場合は、使用している単位に注意する必要があります。

### 航空輸送、トラック輸送の場合

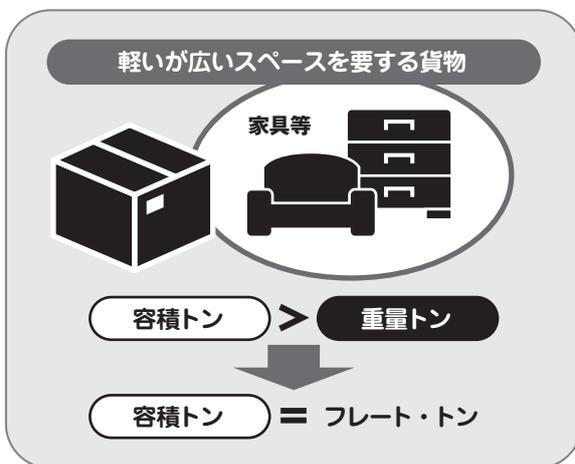
容積トンと重量トンと比較する考え方は、航空輸送費やトラック輸送費を算出する際にも利用されています。

航空輸送の場合は6立方メートルを1トン、トラック輸送の場合は約3.57立方メートルを1トンとして換算し、この容積トンと実際の重量である重量トンと比較して、数値の大きい方を基準として輸送運賃が計算されます。

### フレート・トンの役割

フレート・トンとは、様々な形状や重量の貨物の運賃を適切に設定する上で、重要な役割を果たしています。

また、容積と重量を比較して運賃を算定することや、比較の際の基準となる立法メートル当たりのトン数は世界共通で設定されているものであるため、各国間の物流の取引において重要な役割を担っています。



フレート・トンの概要

